

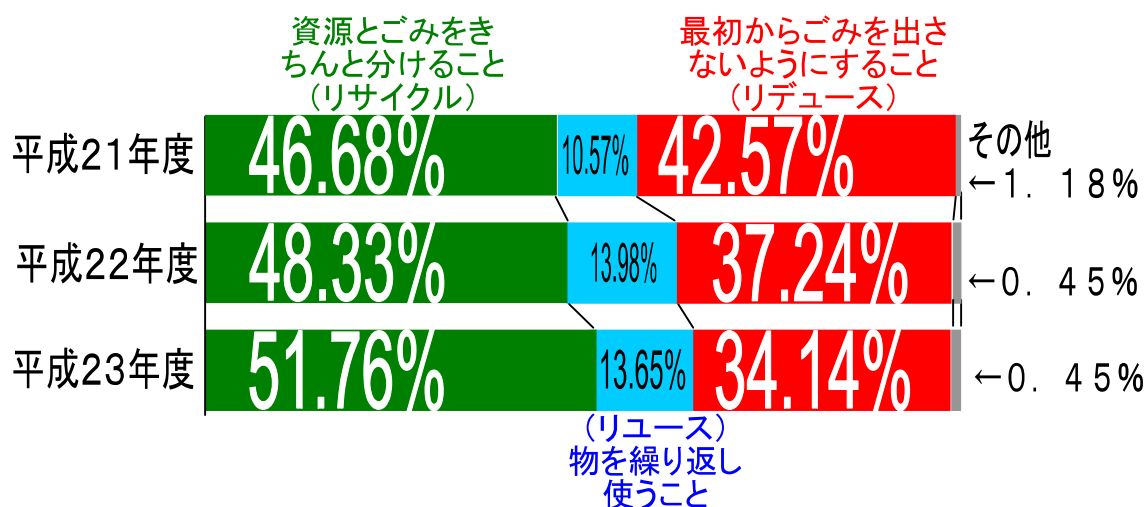
平成23年度ごみ減量月間（街頭キャンペーン） アンケート集計結果

平成23年度においては、区内13会場（2会場中止）にて街頭キャンペーンとしてアンケートの実施とマイバックの配布、ちらし配布を行い、ごみの減量を呼びかけた。

「ごみの発生抑制」意識の浸透状況について（有効回答者数 2,220）

問1 ごみを減らすために一番大切なことはどれだと思いますか。
いずれか1つに○をつけてください。

1. 資源とごみをきちんと分けること (1,149件) 51.76%
2. 物を繰り返し使うこと (303件) 13.65%
3. 最初からごみを出さないようにすること (758件) 34.14%
4. その他 (10件) 0.45%
(その他の意見) 物をなるべく買わない、生ごみを出さないようにしている、ちらしなども努めて資源化 等



「資源とごみをきちんと分けること（リサイクル）」の割合が年々増えており、一番多い結果となっている。逆に、ごみの減量に一番大切な発生抑制である「最初からごみを出さないようにすること（発生抑制）」の割合が減ってしまい、「物を繰り返し使うこと（リユース）」はほぼ変わっていない。

雑紙の分別徹底をPRした影響もあると思われるが、今後、分別よりも発生抑制の優先度が高いことを力を入れて啓発していく必要がある。

ごみ減量の取組状況について（有効回答者数 2,534）

問2 あなたは、ごみを減らすために日頃から何か取り組んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 物を大切に使い続ける(1,473件) **リユース(Reuse)再使用**



2. 資源とごみの分別(1,573件) **リサイクル(Recycle)再生利用**



3. マイバッグを使ってレジ袋は断る(1,345件) **リデュース(Reduce)発生抑制**



4. 生ごみの水切り(1,082件) **リデュース(Reduce)発生抑制**



5. ばら売りを選び必要なものだけ買う(661件) **リデュース(Reduce)発生抑制**



6. 不要な包装は断る(1,347件) **リデュース(Reduce)発生抑制**



7. 特に取り組んでいない(11件)



8. その他(33件)



昨年より全体的にパーセンテージが減っていますが、「マイバッグを使ってレジ袋は断る」の割合は増えおり、レジ袋の削減への意識は高まっている。「生ごみの水切り」「不要な包装は断る」の割合が急激に減少しており、割合を上昇させる必要がある。

その他の意見（食べられる物は調理法により減らす、生ごみディスポーザーにかけて生ごみを減らす、レジ袋をごみ袋に再利用 等）

今後の取り組みについて（有効回答者数 2,490）

問3 ごみの減量やリサイクルを推進していくためには、どのような取り組みに重点を置いていく必要があると思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. イベントやキャンペーンの実施(1,095件)



2. ホームページやFM放送などを使ったPR活動(353件)



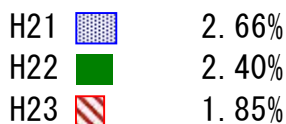
3. 事業者による自主的な活動の促進(1,354件)



4. 地域における自主的な活動の促進(1,330件)



5. その他(46件)



その他の意見 本人の意識が一番大切、TVで広報フィルムを流す、
みなさんが心掛けるしかない、ごみの出にくい商品の開発、
掲示板を活用する、物を大事にする、
ごみの回収日を減らして一人一人意識を高めること 等

「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進の割合は昨年よりも減っているものの、他項目よりも高い割合を維持しています。イベントやキャンペーンなどのPRといった啓発活動も、必要であるという割合は減っています。

雑紙の認知・実践について（有効回答者数 2,277）

問 4 新聞・段ボール・雑誌・牛乳パックと同様に、リサイクルできる紙類である「雑紙（ざつがみ）」を資源回収に出していますか。
いずれか 1 つに○をつけてください。

【問 4 は平成 23 年度から実施】

1. 雑紙（ざつがみ）がどういうものかを知らない（370 件）

H23  16.25%

2. 雑紙（ざつがみ）は知っているが資源回収には出していないものが多い（385 件）

H23  16.91%

3. 雑紙（ざつがみ）は積極的に資源回収に出している（1,505 件）

H23  66.10%

4. その他（17 件）

H23  0.75%

その他の意見 新聞紙、雑誌分けて出している、子供会や町会に出している 等

「雑紙（ざつがみ）がどういうものかを知らない」という回答は 16.25% に止まり、雑紙自体の認知度は 80% を超える高い割合を示している。また、積極的に資源回収に出している割合も 66.1% と高い割合になっている一方、雑紙を認知していながら資源回収に出せていない割合も 16.91% いる。

アンケート集計結果のまとめ

アンケートの結果、「最初からごみを出さないようにすること」である発生抑制よりも「資源をきちんと分別する」のリサイクルに対する意識の割合が徐々に高くなってきており、依然としてリサイクルの意識が高い。

また、自ら行っている取組については、「マイバッグを使ってレジ袋は断る」は昨年を上回っており、レジ袋を断る意識が高まっているといえるが、「不要な包装を断る」が大きく数値が落ちており、レジ袋のみが意識が高くなっている。

今後の取組に関しては、「事業者」及び「地域」による自主的な活動が必要と答えた割合が高く、お互いの役割に応じた自主的な活動が求められている。

雑紙については、雑紙の分別を積極的に行っているという確率が 66% で雑紙の認知度及び実践率は高いと言える。

全体として、資源とごみの分別を重視する傾向が高く、推進協議会の PR の方向性と異なった結果となっているが、「かつしかルール」で雑紙（ざつがみ）の資源回収の徹底など、分別を徹底することでごみ減量につながることを PR している影響があるのではないかと考えられる。

今後ともごみの発生抑制を強く意識するために PR していく必要がある。